

1 単元名 5-1 マットオリンピック

2 授業づくりの構想

(1) 運動の持つ特性

○マット運動は、技を身につけたり新しい技に挑戦しようとしたりするとき、楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。また、連続した技ができるようになったり、より美しい動きができるようになったりすることで達成感を味わうことができる運動である。

○低・中学年で身につけてきた動きや運動感覚をもとに、回転技や倒立技に取り組み、自分の能力に適した技ができるようにする運動である。

○学習者が課題をもって工夫しながら活動に取り組むことで、友だちとともに技を教えあったり、協力したりして、友だちとの関わりを広げることのできる運動である。

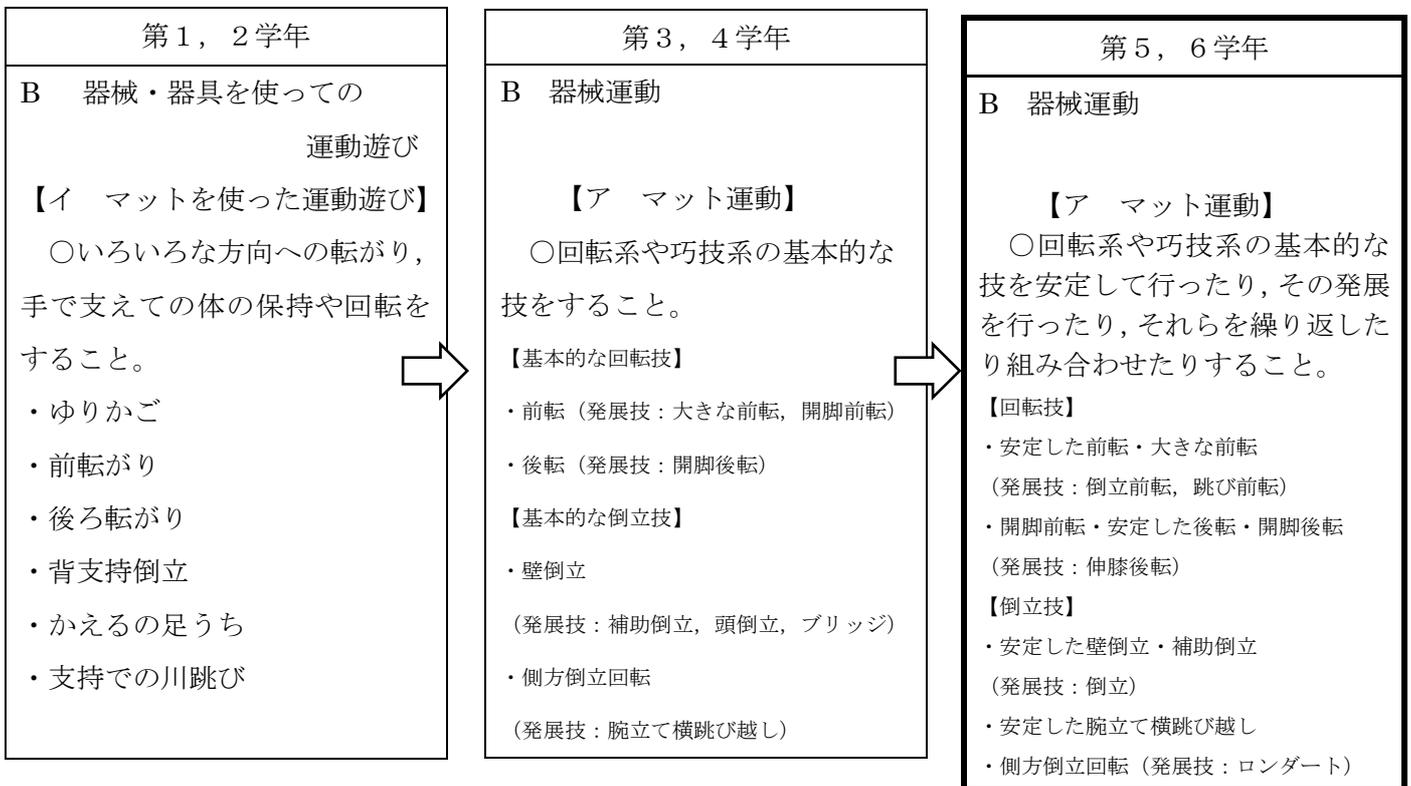
(2) 児童の実態

○本校の5年生（23名）は、運動に積極的に取り組む児童が多く、休み時間になると積極的に身体を動かしている。

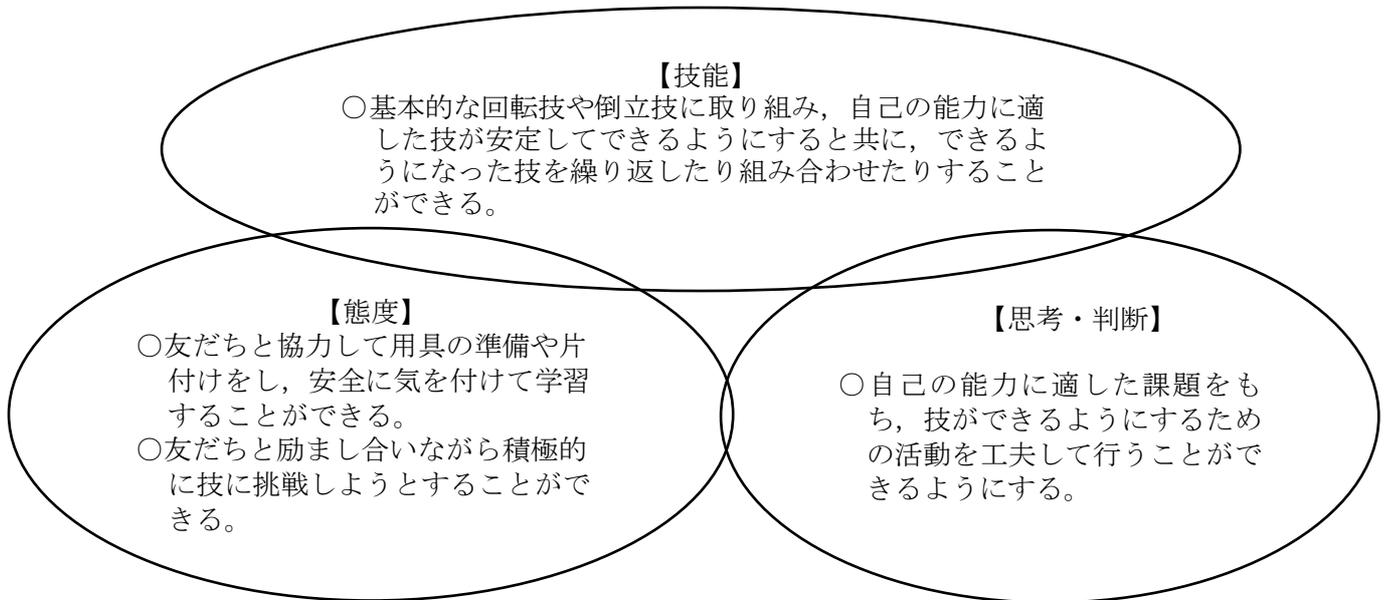
○アンケート調査を行ったが、マット運動に苦手意識を持っている子どもは全体の13%いた。その理由として、「がんばっても技ができない。」「うまく技ができない。」などを挙げている。

○とび箱運動では、多くの児童が技に挑戦しようとする姿が見られる一方で、友だちからアドバイスされても、ポイントに気づかず技の修得に到達できない児童もあり、ポイントを伝える側の課題も見られた。

(3) 運動（学習内容）の系統性



(4) 単元の目標



(5) 学びへの働きかけ（指導の意図）

- 単元構成の工夫
 - ・単元の前半は技の動きを体験できるよう、個人で技を練習する時間を多く設定し、基本的な技の習得が図れるようにする。学習を進めていくにつれ、後半にはできるようになった技をいくつか組み合わせて一つの流れを作り、グループマットに挑戦する。つなぎ技を技と技の間に取り入れることで演技の構成を考え、流れが美しくなるように工夫させていきたい。
 - ・単元を通して、学習の導入場面では、学習の準備ができた子どもたちからサーキットを行って、基本的な技をより美しくできるようにする。
- アドバイスボードや ICT 機器の活用
 - ・導入段階で見本の動きを見てポイントや注意点を子どもたち同士で確認させ合う。また、ペアを組ませて ICT 機器で練習段階の動きを録画し合ったり、動画を見て課題を解決するための話し合いをしたりする。その他にも、アドバイスボードを用意し、技の習得や友だち同士でのアドバイスをしあえる手がかりにさせていきたい。
- 用具・場の設定
 - ・自分のめあてに合った練習方法を自分で選択して学習に取り組むことができるようにする。
 - ・マットの中心に線を引き、中心をわかりやすくして技の美しさを意識させる。
- 言語活動の充実
 - ・自分に合った場やめあてを考えることができるようにするために、学習の途中で話し合いの時間を設けたり、できている子どもたちの動きを披露したりする。
 - ・アドバイスをもらう視点を持てるように、アドバイス用紙を子どもたちに持たせておき、話し合いをしやすくする。
 - ・振り返り板を活用して、学習の「楽しさ」や「出来映え」について振り返る時間を設ける。そこで、自己評価の低い友だちに言葉をかけるきっかけ作りや、学びあいの場が生まれるようにしていきたい。
 - ・友だち同士で技を見あったり、アドバイスをしたりする中で、小さな変化を見つけて肯定的な声かけを行っていく。

(6) 単元の流れ及び評価の計画

		1	2	3	4 (本時)	5	6	7
ねらい	主な	・学習の仕方を理解しよう。	いろいろな技ができるようになるろう。			グループマットの流れを決めて、技を練習しよう。		グループ発表会をしよう。
学習内容	核となる	・進め方, ねらい ・できる技の確認	技の習得 (基本技, 発展技) 対話的な体育学習			つなぎ技を取り入れ, 流れを考えて練習する。		5-1 マット オリンピック 発表会
			【倒立技】 着手 視線 足の振り上げ 【回転技】 着手位置 順次接触 伸膝			【シンクロ】 左右 前後 ずらし すれ違い 交差		
学習活動	【わかる・できる・ためす】 【いやす・チャレンジする】	オリエンテーション	サーキットタイム (基礎感覚・類似の運動)					
		・準備と片付け ・安全に学習するための確認 ・既習事項の確認と個人の達成度の把握	いろいろな技ができるようになるろう。					
		【回転技】 ・前転・後転 ・大きな前転 ・開脚前転 ・開脚後転 ・跳び前転	【倒立技】 ・補助倒立 ・倒立前転 ・腕立て横跳び越し		グループ発表でする演技の構成を考えて練習しよう。		5-1 マット オリンピック	
		振り返り						
評価の計画	関	③						
	思		①	①		②		
	技				①		②	① ②

	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能
具体的な評価規準	① マット運動に進んで取り組もうとしている。 ② きまりを守り, 友だちと励まし合って運動をしようとしている。 ③ 器械・器具の準備や片付けを友だちと一緒にしようとしている。 ④ 安全を確かめながら試技を行おうとしている。	① 課題練習の解決の仕方を知り, 自分の課題に応じた練習の場や段階を選ぶことができる。 ② 技をつなぐ方法を知り, 自分で考えて技を組み合わせることができる。	① 基本的な回転技や倒立技に取り組み, 自分の能力に適した技ができる。 ② 技の組み合わせ方を理解し, 繰り返したり, 組み合わせたりすることができる。

児童のつぶやき

核となる言葉かけ

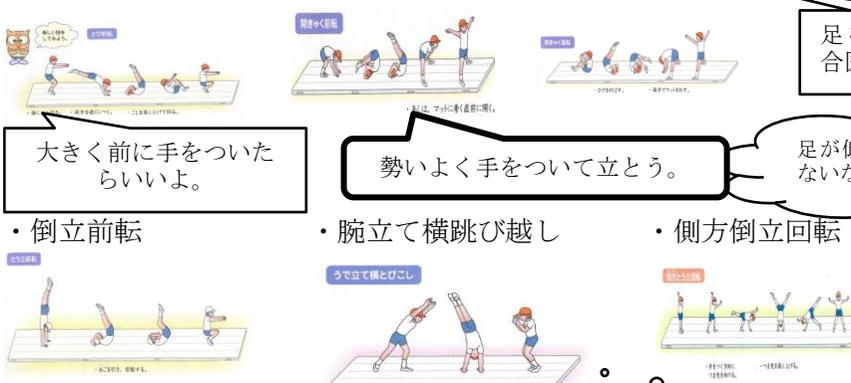
技術的な言葉かけ・教え合い

3 本時の学習 (4 / 7)

(1) 目標 **基本的な回転技や倒立技に取り組み、自分の能力に適した技ができる。【技能】**

(2) 準備 マット、振り返りボード、マグネット、シール、アドバイス用紙、アドバイスボード、筆記用具、ゴム紐、等級旗、探検バッグ

(3) 展開

学びの段階	学習活動と予想される児童の反応	○指導上の留意点・支援 ★評価 (方法)
<p>ひらく</p> <p>できる</p>	<p>1 場の準備を行い、サーキットを行う。</p> <p>・前転 ・後転 ・かえるとび ・かえるの足うち ・手押し車 ・川とび ・補助倒立</p> <p>2 前時の学習を振り返り、本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">技のポイントを意識して完成度を高めよう。</div> <p>3 いろいろな技に挑戦しよう。</p> <p>・跳び前転 ・開脚前転 ・開脚後転</p>  <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">大きく前に手をついたらいいよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">勢いよく手をついて立とう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">足を低くてきれいに回れないな。</div> <p>・倒立前転 ・腕立て横跳び越し ・側方倒立回転</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">腕をたたむタイミングはつま先が天井にきたときだよ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">足がまっすぐになっているか見ていて欲しいな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">頭のてっぺんで回ってしまうなあ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">技の終わりは始めと向きが逆だね。</div>	<p>○周りをよく見て、安全に用具を準備するように声かけを行い、手際よく準備しているチームを称賛する。</p> <p>○サーキットで技の美しさを意識している子どもを称賛することにより全体のレベルを上げていく。</p> <p>○完成度を高めたい技や苦手な技を2つに決めて、焦点をしぼって練習できるようにする。</p> <p>○振り返り板を確認し、前回の学習でした内容を思い出させ意欲を高めるようにする。</p> <p>○3人1組を作って、技を練習する子どもに対して2人の子どもをつかせ、技のポイントや励ましの言葉を送り、意欲を高めさせる。</p> <p>○アドバイスが終わるまで、次の技を練習する子どもは安全上待機させる。</p> <p>○アドバイス用紙が必要な子どもがいたら用紙を持たせて、練習で見たいポイントを記入させておき、活用させる。</p> <p>○ゴム紐や鈴、テープなどを使うことで技の完成度が高まる練習ができることに気づけるよう、用具ボックスを各グループで用意しておく。</p> <p>○技を練習して出てきたポイントを全体の場で共有し合う。</p> <p>○学習した振り返りを振り返り板に書かせ、変容を見たり、課題点やよかった点をグループで話しあったりする。</p>
<p>いかす</p>	<p>4 シンクロマットに挑戦する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">〇〇さんとうまくそろわないなあ。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">タイミングを合わせてみよう。「せーの」で技を始めよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">回るときの動きの大きさに差があるからそろわないんだ。</div>	<p>○2グループでマットを合体させ、練習場所を作る。</p> <p>○3人でシンクロマットに取り組み、技がそろった時の美しさや達成感を味わわせる。</p> <p>○グループ内で技を見あってアドバイスをしあえるよう声かけをする。</p>
<p>ふりかえる</p>	<p>5 学習の振り返りを行う。</p>	<p>★基本的な回転技や倒立技に取り組み、自分の能力に適した技ができる。【技能】</p>

昨日よりできて、自信がいったぞ。

自分ではできていると思っていたけど、動きを大きくするともっといいな。

○振り返り板を使って、授業前と後の変容に気づかせたい。